



Title	Network meta-analysis of the effectiveness of psychotherapies with or without medication for treating adult depression
Author(s)	福森, まゆみ
Citation	大阪大学, 2024, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/101472
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨

Synopsis of Thesis

氏 名 Name	福森 まゆみ
論文題名 Title	Network meta-analysis of the effectiveness of psychotherapies with or without medication for treating adult depression (成人うつ病における精神療法と薬物治療の併用効果に関するネットワークメタアナリシス)
<p>論文内容の要旨</p> <p>〔目 的(Objective)〕</p> <p>うつ病に対する精神療法と薬物治療の併用が、精神療法単独よりも効果的であるかを確認し、さらに、どの精神療法との併用が最良かを明らかにすることを目的とした。</p> <p>〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕</p> <p>Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (DSM) や Research Diagnostic Criteria (RDC) に基づき、うつ病と診断された成人を対象とした。行動活性療法、精神分析療法、対人関係療法、対面式個別認知行動療法、集団認知行動療法、およびコンピューターやインターネットを介した認知行動療法について、薬物治療の併用の有無を区別して相互に比較した。また、薬物治療を含む通常治療や待機リストコントロール (WLC) とも比較した。治療前後のうつ病の重症度は、Hamilton Rating Scale for Depression (HRSD)、Montgomery Åsberg Depression Rating Scale (MADRS)、Beck Depression Index (BDI)、Patient Health Questionnaire-9 (PHQ-9)、Quick-/Inventory of Depressive Symptomatology (QIDS or IDS) のいずれかを用いて評価した。その結果からうつ病の治療効果に関するネットワークメタアナリシスを行った。</p> <p>まず、Medline や Cochrane Library を用いて、2021年12月までに出版されたうつ病に対する精神療法に関する systematic review 153報を抽出した。次に、その systematic review に含まれるすべてのランダム化比較試験 (RCT) を抽出し、さらには2021年以前の systematic review に不足している2020年からのRCTを追加検索した。最終的に、総計10038報から適切と判断されたRCT100報を抽出し、参加者計9873人のデータを用いて解析を行った。</p> <p>各精神療法単独群および薬物治療の併用群、通常治療群、WLC群の治療効果を、治療後のうつ病スケール結果の標準化平均差を用いて二群比較を行い、ネットワークメタアナリシスを実施した。併用群は通常治療より治療効果が高く、精神療法単独と通常治療との間には有意差がなかった。また、精神療法と薬物治療の併用は、精神療法単独より有意な効果を示した。治療効果の順位を示す指標である surface under the cumulative ranking (SUCRA) では、集団認知行動療法と薬物治療の併用が最も高い効果を示した。</p> <p>さらに、治療開始時のうつ病の重症度に基づいて軽度、中等度、重度に分けて行った subgroup 解析では、軽度うつ病では精神療法単独群と併用群の間に有意差は認められなかったが、中等度以上のうつ病では併用群の治療効果が有意に高かった。</p> <p>〔総 括(Conclusion)〕</p> <p>成人うつ病の治療において、集団認知行動療法と薬物治療の併用が最も有効であることが示唆された。また、精神療法単独と薬物治療を含む標準治療の効果には有意差が認められなかった。軽度うつ病では、精神療法と薬物治療の併用は精神療法単独と比較しても有意差がなかったが、中等度から重度のうつ病では、精神療法と薬物治療の併用が精神療法単独よりも効果的であることが確認された。</p> <p>うつ病の重症度によって治療効果が異なるように、年齢や合併症、患者の背景などによっても治療効果が異なる可能性がある。また、認知行動療法以外の精神療法でも、個別か集団か、インターネットを介したものかといった形式によっても効果が異なるかもしれない。精神分析療法のように長期間の治療を要する療法もあり、今後の研究では、同じ特徴を持つ参加者を対象に、さまざまな精神療法をその形式毎に区別して比較し、短期および長期の両方で効果を観察することが重要である。これにより、どのような特徴を持つうつ病患者に対してどの治療がより効果的であるかを明らかにすることが求められる。</p>	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 福森 まゆみ			
論文審査担当者	(職)	氏 名	
	主 査	大阪大学教授	金子 正昭
	副 査	大阪大学教授	片山 泰一
	副 査	大阪大学教授	池田 亨
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>成人うつ病に対して一般に行われる精神療法である行動活性療法、精神分析療法、対人関係療法、対面式個別認知行動療法、集団認知行動療法、およびコンピュータまたはインターネットを介した認知行動療法の治療効果を、薬物治療の併用の有無も区別して、ネットワークメタアナリシスの手法を用いて比較した論文である。本研究は、精神療法と薬物治療の併用が一般に効果的とされる中、軽症うつ病ではその有意差が認められないことを示した。一方、中等症以上のうつ病では、併用治療の方が有意に効果的であることが確認された。また、精神療法の中では特に集団認知行動療法が効果的であることが示された。うつ病は世界的にも罹患率が高く、この研究は有効な治療法の確立に向けた重要な知見を提供しており、今後のうつ病治療ガイドライン作成に寄与しうる。よって、本研究は学位の授与に値すると考えられる。</p>			